

公益財団法人図書館振興財団

第16回 子どもの本 この1年を振り返って 2015年 ブックリスト

■フィクションの部■

児童書選書委員会 岩村 陽恵

図書館振興財団「児童書選書委員会」でフィクションとして取り上げられた作品より、評価が良かった本、評価が分かれた本、出版業況や時世の点から注目した本などをリストに挙げました。

■日本の歴史・文化(古典・神話)をベースとした作品

■平和を願って —戦後70年という節目の年に—

■幼年童話

■複数の語り手を持つ物語 —主人公が一人ではない物語—

■学校・家庭 —日常の物語—

■冒険・ファンタジー —違う世界へ—

■その他 —話題になった本・気になっている本—

■詩

■シリーズ

■復刊・再刊・改題・改訂版

■児童図書館員・学校司書・子どもの本に関わる大人の人へ

■日本の歴史・文化(古典・神話)をベースとした作品

	中	『月夜に見参!』(くのいち小桜忍法帖)/齊藤洋・作/あすなろ書房/2015. 7/¥1300/(913. 6)
	中	『火の降る夜に桜舞う』(くのいち小桜忍法帖)/齊藤洋・作/あすなろ書房/2015. 11/¥1300/(913. 6)
	中	『根の国物語』(文研じゅべに一る)/久保田香里・作/文研出版/2015. 11/¥1300/(913. 6)
	高	『清政 絵師になりたかった少年』/茂木ちあき・作/新日本出版社/2015. 2/¥1500/(913. 6)
★	高	『酒天童子』/竹下文子・著/偕成社/2015. 4/¥1500/(913. 6)
★	高	『すし食いねえ』(講談社・文学の扉)/吉橋通夫・著/講談社/2015. 7/¥1400/(913. 6)
	高	『波のそこにも』/末吉暁子・作/偕成社/2015. 7/¥1600/(913. 6)
	高	『真田十勇士 1 参上、猿飛佐助』/小前亮・作/小峰書店/2015. 10/¥1400/(913. 6)
	高	『真田十勇士 2 決起、真田幸村』/小前亮・作/小峰書店/2015. 12/¥1400/(913. 6)
	高	『真田十勇士 1 忍術使い』/松尾清貴・著/理論社/2015. 11/¥1300/(913. 6)
	高	『チポロ』/菅野雪虫・著/講談社/2015. 11/¥1400/(913. 6)
	高	『万次郎 地球を初めてめぐった日本人』/岡崎ひでたか・作/新日本出版社/2015. 1/¥1500/(289. 1)

■平和を願って ―戦後70年という節目の年に―

★	中	『戦争と平和のものがたり 1 ちいちゃんのかげおくり』/西本鶏介・編/ポプラ社/2015. 3/¥1200/(913. 68)
	中	『戦争と平和のものがたり 2 一つの花』/西本鶏介・編/ポプラ社/2015. 3/¥1200/(913. 68)
	中	『戦争と平和のものがたり 3 おはじきの木』/西本鶏介・編/ポプラ社/2015. 3/¥1200/(913. 68)
	中	『戦争と平和のものがたり 4 ヒロシマの歌』/西本鶏介・編/ポプラ社/2015. 3/¥1200/(913. 68)
	中	『戦争と平和のものがたり 5 やわらかい手』/西本鶏介・編/ポプラ社/2015. 3/¥1200/(913. 68)
	中	『3+6の夏 ひろしま、あの子はだあれ』/中澤晶子・作/汐文社/2015. 7/¥1400/(913. 6)
	高	『小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話 戦争童話集～忘れてはイケナイ物語り～』/野坂昭如・原作/世界文化社/2015. 8/¥1600/(913. 6)
★	高	『わたしが子どものころ戦争があった 児童文学者が語る現代史』/野上暁・編/理論社/2015. 8/¥1400/(916)

	高	『子どもたちへ、今こそ伝える戦争 子どもの本の作家たち19人の真実』/長新太ほか・著/講談社/2015. 7/¥1800/(210. 75)
	高	『戦争といのちと聖路加国際病院ものがたり』/日野原重明・著/小学館/2015. 9/¥1200/(916)
	高	『走れ、走って逃げろ』(岩波少年文庫)/ウーリー・オルレブ・作, 母袋夏生・訳/岩波書店/2015. 6/¥720/(929. 733)
★	高	『戦火の三匹 ロンドン大脱出』/ミーガン・リクス・作, 尾高薫・訳/徳間書店/2015. 11/¥1600/(933. 7)

■幼年童話

★	低	『こぶたのピクルス』(福音館創作童話シリーズ)/小風さち・文/福音館書店/2015. 2/¥1600/(913. 6)
★	低	『アレハンドロの大旅行』(福音館創作童話シリーズ)/きたむらえり・さく・え/福音館書店/2015. 3/¥1300/(913. 6)
	低	『ひつじのブルル』(とっておきのどうわ)/さいとうのりこ・作/PHP研究所/2015. 5/¥1100/(913. 6)
	低	『あめ・のち・ともだち』(ともだちって★いいな)/北原未夏子・作/国土社/2015. 6/¥1200/(913. 6)
	低	『スプーン王子のぼうけん』(おはなしのくに)/竹下文子・作/鈴木出版/2015. 6/¥1300/(913. 6)
	低	『ためきがくるよ』(おはなしいちばん星)/高科正信・作/BL出版/2015. 8/¥1200/(913. 6)
	低	『おとなりどうしソラくんレミくん』/石津ちひろ・さく/理論社/2015. 11/¥1100/(913. 6)
	低	『めいちゃんの500円玉』/なかがわちひろ・作・絵/アリス館/2015. 12/¥1400/(913. 6)
	低	『ベッツィ・メイとこいぬ』/イーニッド・ブライトン・作, 小宮由・訳/岩波書店/2015. 4/¥1200/(933. 7)
	低	『ベッツィ・メイとにんぎょう』/イーニッド・ブライトン・作, 小宮由・訳/岩波書店/2015. 5/¥1200/(933. 7)
	低	『くろねこのロク空をとぶ』/インガ・ムーア・作・絵, なかがわちひろ・訳/徳間書店/2015. 5/¥1700/(933. 7)
★	低	『ちやいろいつつみ紙のはなし』(世界傑作童話シリーズ)/アリソン・アトリー・作, 松野正子・訳/福音館書店/2015. 9/¥1100/(933. 7)
	低	『ハリーとうたうおとなりさん』(こころのほんばこシリーズ)/ジーン・ジオン・ぶん, 小宮由・やく/大日本図書/2015. 11/¥1400/(933. 7)
	低	『ルイージといじわるなへいたいさん』/ルイス・スロボドキン・作・絵, こみやゆう・訳/徳間書店/2015. 9/¥1700/(933. 7)
★	低	『ウォーリーと16人のギャング』(こころのほんばこシリーズ)/リチャード・ケネディ・ぶん, 小宮由・やく/大日本図書/2015. 12/¥1400/(933. 7)

■複数の語り手を持つ物語 —主人公が一人ではない物語—

★	中	『おうだんほどのムッシュトマーレ』/香坂直・作/小学館/2015. 4/¥1300/(913. 6)
	高	『ツツクボウシの鳴くところに』(文研じゅべにーる)/堤しゅんぺい・作/文研出版/2015. 6/¥1300/(913. 6)
★	高	『スモーキー山脈からの手紙』/バーバラ・オコーナー・作, こだまともこ・訳/評論社/2015. 6/¥1500/(933. 7)
	高	『みずがめ座流星群の夏』(ノベルズ・エクスプレス)/杉本りえ・作/ポプラ社/2015. 6/¥1300/(913. 6)
	高	『それぞれの名前』(講談社文学の扉)/春間美幸・著/講談社/2015. 5/¥1300/(913. 6)
	高～	『風のホテルクライム ぼらの自転車ロードレース』(物語の王国)/加部鈴子・作/岩崎書店/2015. 5/¥1300/(913. 6)
	高～	『ワンダー』/R. J. パラシオ・作, 中井はるの・訳/ほるぷ出版/2015. 7/¥1500/(933. 7)

■学校・家庭 —日常の物語—

★	中	『金色のキャベツ』(ホップステップキッズ!)/堀米薫・作/そうえん社/2014. 12/¥1200/(913. 6)
	中	『ペンギンは、ぼくのネコ』/ホリー・ウェブ・作, 田中亜希子・訳/徳間書店/2015. 7/¥1400/(933. 7)
	中	『2分の1成人式』(講談社文学の扉)/井上林子・著/講談社/2015. 9/¥1300/(913. 6)
	中	『おばけ道、ただいま工事中! ?』(おはなしガーデン)/草野あきこ・作/岩崎書店/2015. 8/¥1200/(913. 6)
	中	『お昼の放送の時間です』(ポプラ物語館)/乗松葉子・作/ポプラ社/2015. 10/¥1200/(913. 6)
★	中	『ニレの木広場のモモモ館』(ノベルズ・エクスプレス)/高樓方子・作/ポプラ社/2015. 10/¥1400/(913. 6)
	中	『二日月』(ホップステップキッズ!)/いとうみく・作/そうえん社/2015. 11/¥1300/(913. 6)
★	高	『茶畑のジャヤ』(鈴木出版の児童文学)/中川なをみ・作/鈴木出版/2015. 9/¥1500/(913. 6)
	高	『自転車少年(チャリンコボーイ)』/横山充男・著/くもん出版/2015. 10/¥1500/(913. 6)
	高	『イスタンブルで猫さがし』(ノベルズ・エクスプレス)/新藤悦子・作/ポプラ社/2015. 9/¥1300/(913. 6)
	高	『ひみつの校庭』(ティーンズ文学館)/吉野万理子・作/学研プラス/2015. 12/¥1300/(913. 6)

■冒険・ファンタジー —違う世界へ—

	中	『ようふくなおしのモモーヌ』/片山令子・作/のら書店/2015. 2/¥1300/(913. 6)
	中	『ぼろイスのボス』/ダイアナ・ウィン・ジョーンズ・作, 野口絵美・訳/徳間書店/2015. 4/¥1700/(933. 7)
	中	『菜の子ちゃんと龍の子』(福音館創作童話シリーズ)/富安陽子・作/福音館書店/2015. 3/¥1200/(913. 6)
★	低・中	『さかさ町』/F. エマーソン・アンドリュース・作, 小宮由・訳/岩波書店/2015. 12/¥1400/(933. 7)
★	高	『岸辺のヤービ Tales of Madguide Water』/梨木香歩・著/福音館書店/2015. 9/¥1600/(913. 6)
★	高	『踊る光』/トンケ・ドラフト・作, 西村由美・訳/岩波書店/2015. 1/¥1600/(949. 33)
	高	『アーチャー・グリーンと魔法図書館の謎』/D. D. エヴェレスト・著, こだまともこ・訳/あすなろ書房/2015. 7/¥2000/(933. 7)
	高	『北風のうしろの国 上・下』(岩波少年文庫)/ジョージ・マクドナルド・作, 脇明子・訳/岩波書店/上・下共に2015. 10/上・下共に¥760/(933. 6)
★	高	『ジャングル・ブック』(岩波少年文庫)/ラドヤード・キプリング・作, 三辺律子・訳/岩波書店/2015. 5/¥800/(933. 6)
	高～	『少年キム 上・下』(岩波少年文庫)/ラドヤード・キプリング・作, 三辺律子・訳/岩波書店/上・下共に2015. 11/¥720~/ (933. 6)

■その他 —話題になった本・気になっている本—

★	中	『トルネード! たつまきとともに来た犬』(ジュニア文学館)/ベッツィ・バイアーズ・作, もりうちすみこ・訳/学研教育出版/2015. 5/¥1300/(933. 7)
	高	『夢見る犬たち 五番犬舎の奇跡』/クリフ・マクニッシュ・作, 浜田かつこ・訳/金の星社/2015. 8/¥1400/(933. 7)
	高	『走れ、風のように』/マイケル・モーパーゴ・著, 佐藤見果夢・訳/評論社/2015. 9/¥1200/(933. 7)
★	高	『ぼくたちの相棒』/ケイト・バンクス・著, ルパート・シェルドレイク・著, 千葉茂樹・訳/あすなろ書房/2015. 11/¥1400/(933. 7)
	高	『14番目の金魚』/ジェニファー・L. ホルム・作, 横山和江・訳/講談社/2015. 11/¥1600/(933. 7)
	高	『レッド・フォックス カナダの森のキツネ物語』/チャールズ・G. D. ロバーツ・作, 桂宥子・訳/福音館書店/2015. 10/¥1400/(480. 4)
	高	『狐物語』(福音館古典童話シリーズ)/レオポルド・ショヴォー・編・画, 山脇百合子・訳/福音館書店/2015. 6/¥2300/(951. 4)
	高	『ぼくと象のものがたり』(鈴木出版の海外児童文学)/リン・ケリー・作, 若林千鶴・訳/鈴木出版/2015. 3/¥1600/(933. 7)

	高	『コービーの海』(鈴木出版の海外児童文学)/ベン・マイケルセン・作, 代田亜香子・訳/鈴木出版/2015. 6/¥1600/(933. 7)
	高	『白いイルカの浜辺』(評論社の児童図書館・文学の部屋)/ジル・ルイス・作, さくまゆみこ・訳/評論社/2015. 7/¥1600/(933. 7)
★	中	『クジラに救われた村』/ニコラ・デイビス・文, もりうちすみこ・訳/さ・え・ら書房/2015. 12/¥1300/(933. 7)
★	中	『ゆうかな猫ミランダ』/エレナー・エステイス・作, 津森優子・訳/岩波書店/2015. 12/¥1500/(933. 7)
★	高	『岬のマヨイガ』(講談社・文学の扉)/柏葉幸子・著/講談社/2015. 9/¥1500/(913. 6)
	高	『青い目の人形物語 1 平和への願い アメリカ編』/シャーリー・パレントー・作, 河野万里子・訳/岩崎書店/2015. 6/¥1600/(933. 7)
★	高	『ぼくたちに翼があったころ コルチャック先生と107人の子どもたち』/タミ・シエム＝トヴ・作, 樋口範子・訳/福音館書店/2015. 9/¥1700/(929. 733)
	高	『お静かに、父が昼寝しております ユダヤの民話』(岩波少年文庫)/母袋夏生・編訳/岩波書店/2015. 12/¥720/(929. 733)

■詩

★	低～	『おどる詩あそぶ詩きこえる詩』/はせみつこ・編/富山房インターナショナル/2015. 4/¥2200/(911. 568)
	高	『からたちの花がさいたよ 北原白秋童謡選』(岩波少年文庫)/北原白秋・著/岩波書店/2015. 3/¥880/(911. 58)
	高	『ライラックの枝のクロウタドリ 詩集』/ジェームズ・リーヴズ・著, 間崎ルリ子・訳/こぐま社/2015. 6/¥1800/(931. 7)
	一般	『まど・みちお全詩集』/まどみちお・著/理論社/2015. 9/¥6500/(911. 56)

■シリーズ

	中	『花さき山』(花の咲く童話集)/斎藤隆介ほか・著/岩崎書店/2015. 2/¥1800/(913. 68)
	中	『一つの花』(花の咲く童話集)/今西祐行ほか・著/岩崎書店/2015. 2/¥1800/(913. 68)
	中	『うめの花とてんとうむし』(花の咲く童話集)/工藤直子ほか・著/岩崎書店/2015. 2/¥1800/(913. 68)
	低	『2るいベースがぬすまれた?! 新装版』(ぼくはめいたんてい)/マージョリー・W. シャーマット・ぶん, 神宮輝夫・やく, 内藤貴子・やく/大日本図書/2015. 1/¥1200/(933. 7)
	低	『だいじなはこをとりにかえせ 新装版』(ぼくはめいたんてい)/マージョリー・W. シャーマット・ぶん, 神宮輝夫・やく/大日本図書/2015. 2/¥1200/(933. 7)

低	『ペット・コンテストは大さわぎ 新装版』(ぼくはめいたんてい)/マージョリー・W. シャーマット・ぶん, 神宮輝夫・やく/大日本図書/2015. 2/¥1200/(933. 7)
中	『妖怪きょうだい学校へ行く』(妖怪一家九十九さん)/富安陽子・作/理論社/2015. 1/¥1300/(913. 6)
中	『勇者ライと3つの扉 3 木の扉』/エミリー・ロッド・著, 岡田好恵・訳/KADOKAWA/2015. 5/¥980/(933. 7)
中	『スプーンは知っている』(わくわくライブラリー)/新藤悦子・作/講談社/2015. 10/¥1300/(913. 6)
高	『べんり屋、寺岡の秋。』(文研じゅべにーる)/中山聖子・作/文研出版/2015. 8/¥1300/(913. 6)
高	『べんり屋、寺岡の冬。』(文研じゅべにーる)/中山聖子・作/文研出版/2015. 10/¥1300/(913. 6)
高	『魔使いの復讐』(sogen bookland)/ジョゼフ・ディレイニー・著, 田中亜希子・訳/東京創元社/2015. 2/¥2500/(933. 7)
高	『ファオランの冒険 6 〈果てなき青み〉へ!』/キャスリン・ラスキー・著, 中村佐千江・訳/KADOKAWA/2015. 1/¥900/(933. 7)
高	『夏休みの秘密の友だち』(シノダ!)/富安陽子・著/偕成社/2015. 6/¥1300/(913. 6)
高	『サバイバーズ 3 ひとすじの光』/エリン・ハンター・作, 井上里・訳/小峰書店/2015. 6/¥1300/(933. 7)
高	『スカラブ号の夏休み 上・下』(岩波少年文庫)/アーサー・ランサム・作, 神宮輝夫・訳/岩波書店/2015. 7~/¥720~/ (933. 7)
高	『ペンダーウィックの四姉妹 2 ささやかな奇跡』(Sunnyside Books)/ジーン・バースオール・作, 代田亜香子・訳/小峰書店/2015. 8/¥1700/(933. 7)
高	『アサギをよぶ声 2 新たな旅立ち』/森川成美・作/偕成社/2015. 9/¥1400/(913. 6)
高	『アサギをよぶ声 3 そして時は来た』/森川成美・作/偕成社/2015. 11/¥1400/(913. 6)
高	『ロックなハート』(モールランド・ストーリー)/ひこ・田中・作/福音館書店/2015. 11/¥1500/(913. 6)

■復刊・再刊・改題・改訂版

低	『えんぴつ太郎のぼうけん』(おはなしのくに)/佐藤さとる・作/鈴木出版/2015. 3(「えんぴつ太郎のぼうけん」講談社1976年刊)の改題, 絵を新たに出版)/¥1200/(913. 6)
低	『かわうそオスカーのすべりだい』/ナサニエル・ベンチリー・さく, こみやゆう・やく/好学社/2015. 5(「かわうそのオスカーくん」旺文社1977年刊) 新訳)/¥1400/(933. 7)
低	『大きくてもちっちゃい かばのこカバオ』/森山京・作/風涛社/2015. 10(偕成社1984年刊の再刊)/¥1300/(913. 6)
低	『どうぶつたちががはしていく』(長新太のおはなし絵本)/長新太・さく/子どもの未来社/2015. 12(サンリード 1981年の復刊 新版は「どうぶつたちががはしていく」と「キャベツくんのおしゃべり」の2分冊)/¥1300/(913. 6)

	低	『キャベツくんのおしゃべり』(長新太のおはなし絵本)/長新太・さく/子どもの未来社/2015. 12 (サンリード 1981年の復刊 新版は「どうぶつたちがはしっていく」と「キャベツくんのおしゃべり」の2分冊)/¥1300/(913. 6)
	低	『オンネリとアンネリのおうち』(世界傑作童話シリーズ)/マリヤッタ・クレンニエミ・作, 渡部翠・訳/福音館書店/2015. 10(プチグラフィック2005年刊の加筆、修正)/¥1600/(993. 613)
	中	『黒いお姫さま ドイツの昔話』(福音館文庫)/ヴィルヘルム・ブッシュ・採話, 上田真而子・編・訳/福音館書店/2015. 1(1991年刊の再刊)/¥600/(943. 6)
★	中	『わすれものの森』/岡田淳・作/BL出版/2015. 6(「忘れものの森」(文研出版1975年刊)の改題,加筆)/¥1300/(913. 6)
★	中	『大きなたまご』(岩波少年文庫)/オリバー・バターワース・作, 松岡享子・訳/岩波書店/2015. 8(学研1968年刊の再刊)/¥720/(933. 7)
	高	『たのしいムーミン一家 復刻版』/トーベ＝ヤンソン・作・絵, 山室静・訳/講談社/2015. 7(初版:昭和40年刊)/¥2300/(949. 83)
	高	『はなはなみんなみ物語』(はなはなみんなみ物語)/わたりむつこ・作/岩崎書店/2015. 2(リブリオ出版2005年刊の再刊)/¥2000/(913. 6)
	高	『ゆらぎの詩の物語』(はなはなみんなみ物語)/わたりむつこ・作/岩崎書店/2015. 2(リブリオ出版2005年刊の再刊)/¥2000/(913. 6)
	高	『よみがえる魔法の物語』(はなはなみんなみ物語)/わたりむつこ・作/岩崎書店/2015. 2(リブリオ出版2005年刊の再刊)/¥2000/(913. 6)
	高	『美乃里の夏』(福音館文庫)/藤巻吏絵・作/福音館書店/2015. 4(2004年刊の再刊)/¥600/(913. 6)
	高	『パール街の少年たち』/モルナール・フェレンツ・作, 岩崎悦子・訳/偕成社/2015. 9(学研1968年刊のさし絵を新たにして翻訳者の手によって全文を見直し)/¥1600/(993. 73)
	高	『おたずねもの姉妹の探偵修行 File#1 学園クイーンが殺された! ?』/M. E. ラブ・著, 西田佳子・訳/学研教育出版/2015. 7(「ローズクイーン」(理論社2006年刊)の改題)/¥1100/(933. 7)
	高	『おたずねもの姉妹の探偵修行 File#2 チョコレートは忘れない』/M. E. ラブ・著, 西田佳子・訳/学研教育出版/2015. 9(「チョコレート・ラヴァー」(理論社2006年刊)の改題)/¥1100/(933. 7)
	高	『おたずねもの姉妹の探偵修行 File#3 踊るポリスマンの秘密』/M. E. ラブ・著, 西田佳子・訳/学研プラス/2015. 11(「ダンシング・ポリスマン」(理論社2007年刊)の改題)/¥1100/(933. 7)
	高	『おたずねもの姉妹の探偵修行 File#4 クリスマスの暗号を解け! 』/M. E. ラブ・著, 西田佳子・訳/学研プラス/2015. 12(「クリスマス・キッス」(理論社 2007年刊)の改題)/¥1100/(933. 7)
	高	『だれも知らない小さな国 新イラスト版』(コロボックル物語)/佐藤さとる・作/講談社/2015. 10/¥1400/(913. 6)
	高	『豆つぶほどの小さいぬ 新イラスト版』(コロボックル物語)/佐藤さとる・作/講談社/2015. 10/¥1400/(913. 6)
	高	『星からおちた小さな人 新イラスト版』(コロボックル物語)/佐藤さとる・作/講談社/2015. 11/¥1400/(913. 6)

■児童図書館員・学校司書・子どもの本に関わる大人の人へ

	一般	『子どもと本』(岩波新書)/松岡享子・著/岩波書店/2015. 2/¥820/(019. 5)
★	一般	『石井桃子コレクション 3 新編子どもの図書館』(岩波現代文庫)/石井桃子・著/岩波書店/2015. 3/¥1040/(918. 68)
★	一般	『学校図書館はじめの一步 第2刷』/みの会・編集/みの会/2015. 4/¥462/(017. 2)
	一般	『司書と先生がつくる学校図書館』/福岡淳子・著/玉川大学出版部/2015. 12/¥2000/(017. 2)

■フィクションの部■

講演：児童書選書委員会 岩村 陽恵

フィクションの部を担当します岩村あきえです。

私は現在、公立図書館の非常勤職員として勤務しており、児童担当として日々選書やお話会に携わっています。図書館振興財団の児童書選書委員会では、月に1度、絵本・フィクション・ノンフィクションの新刊について勉強しています。本日は、その選書委員会でフィクションとして取り上げられた作品を中心に、評価が良かった本、評価が分かれた本、出版状況や時世の点から注目した本などについてお話したいと思っています。

■2015年の傾向

まず、「2015年の傾向について」お話します。

2015年のフィクションの出版の全体の傾向として感じることは、手軽に手に取って読めるものが多いことです。朝読を意識してだと思われそうですが、短編集や章ごとに区切って読める物語が多く出版された印象があります。また、表紙や挿絵には漫画、アニメの絵が増え、漫画家の方が活躍しています。

復刊が多いのはここ数年続いている傾向だと思います。古典のように買い替えをして長く蔵書として置いておきたい作品から、楽しみのためのやわらかい作品まで、復刊の幅が広がっているように思います。では、テーマ別に内容についてお話します。

まず、リストでも「日本の歴史・文化（古典・神話）をベースとした作品」と書きましたが、2015年はそういった作品が多く出版されたように感じました。教科書に古典が載り始めた影響があると思います。

また、大河ドラマに影響を受けて『真田十勇士』に注目が集まっているようですし(注1)、和食が世界遺産となりましたが、江戸時代のお寿司屋さんの物語も出ました。日本文化に注目が集まっていることが追い風になっているように思います。

次に「平和を願って 一戦後70年という節目の年に一」とテーマに挙げましたが、2015年は戦後70年という節目の年でしたので、戦争や平和を願う内容の本にも注目をしていました。外国の作品では読みごたえのあるものが出ました。それに比べ日本の作品は、目立つシリーズもありましたが、新しい作品は少なかった印象です。けれども、戦時下の体験談が多く出版されました。あの時代を生きた体験者の語り継いでいこうという意識や思いを感じます。

続いて幼年童話。ここ数年は、幼年童話の出版が増えてきているように感じていましたが、2015年は特に安心して子どもたちに手渡せる作品が多く出ました。この年代の読み手にとって物語を楽しむために重要な挿絵や装丁も良いものが多かったと思います。

「複数の語り手を持つ物語 —主人公が一人ではない物語—」。このテーマでは、一章ごとの区切りで、語り手が変わる物語がいくつか出たことが印象に残りました。オムニバスのような、主人公が複数いる作品は、ヤングアダルトの作品に多いと思っていましたが、小学校中学年・高学年向けの作品にも見られるようになり、注目してみました。

続いて、「学校・家庭—日常の物語—」と「冒険・ファンタジー—違う世界へ—」と題した2つのテーマを設けていますが、ここ数年の印象に同じく、日常の物語の出版が多く、小学生向けの冒険やファンタジーの読み物が少なかったです。

そのほか、「その他」「詩」「シリーズ」「復刊・再刊・改題・改訂版」「児童図書館員・学校司書・子どもの本に関わる大人の人へ」というテーマに沿って、本を紹介していきます。

■日本の歴史・文化（古典・神話）をベースとした作品

このテーマでは、神話、古典、今年の流行の大河ドラマ系、江戸時代が舞台となっている物語が入っています。この中からは2冊紹介します。

まず、『酒天童子』を紹介します。

「酒天童子」をはじめとする、源頼光とその部下の四天王の活躍物語を、現代の子どもたちに読みやすく竹下文子さんが語りなおしたものです。「鬼の腕」は『平家物語剣の巻』、「酒天童子」は『御伽草子』と、いったように別々の出典から、主人公を同じくした5話をうまく一冊にまとめています。想像と解釈が加えられていると「あとがき」にあります。世界観がぶれないで最後まで読みました。漫画の挿絵はやはり子供には人気があるようですが、選ぶ大人にはどうでしょうか？個人的には日本の鬼がこんなに怖いと思ったのは初めてでした。古典の世界に、子どもたちを連れて行ってくれるような本だと思いました。

2冊目は『すし食いねえ』です。

江戸時代のにぎりずしの発祥を元とした物語です。寿司屋台「与兵衛ずし」の息子、豆吉がこのお話の主人公。寺子屋に通いながら店の手伝いを一生懸命にする豆吉の夢は、おとつつあんと内店を持つことです。江戸の空気を肌で感じられる作品で、江戸っ子の豆吉をはじめとする登場人物が生き生きと描かれています。豆吉の目線を通してみる粋な江戸の人々、生活や食文化には興味がわいてきます。太巻きや早づけずし、にぎりずしの記述もおもしろそうです。作者の吉橋道夫さんは子ども向けの時代小説が書ける貴重な作家さんです。物語を通して、日本の歴史や文化を身近に感じられ、愛着もわき、新しいことを知るきっかけになってくれます。

■平和を願って —戦後70年という節目の年に—

節目の年に、生の体験を語るという方に重点が置かれたとお話しましたが、2015年のこのテーマは、ノンフィクションを抜きには語れないと思います。リストの作成や本の紹介などの参考とされる時は、フィクションに限らずに広くチェックすると良いかと思います。ではリストから紹介をしていきます。

『戦争と平和のものがたり 1～5』。

「戦争と平和のものがたり」というシリーズがポプラ社の方から刊行されました。全5巻で、「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」「おはじきの木」「ヒロシマの歌」「やわらかい手」が表題作と

してあがっています。教科書に取り上げられている作品も多く収録されており、図書館や学校でそろえやすいシリーズ構成です。

『わたしが子どものころ戦争があった』は、神沢利子、森山京、あまんきみこなど、児童文学者8名が、自身が子供だった戦前から戦中戦後の体験を語ったものです。いわゆる直接的な戦争体験というよりは、戦時中の子どもたちが何を考えどんな生活をしていたかが浮かび上がってくる本でした。戦争を語り継ごうとする意志を継いで、子どもたちに本を手渡していく必要を意識させられました。リストで並んでいる『子どもたちへ、今こそ伝える戦争』も同じく、大人が説明を加えたり、うまくピックアップしたりして、活用できると良いと思いました。

『戦火の三匹』のストーリーは、第二次世界大戦開戦直前からはじまります。ロンドンに住む12歳のロバートと9歳のルーシー兄妹は、おばあちゃんのいる田舎に疎開することとなり、家族に大切にされていたペットたちは知人に預けられることとなります。しかし、三匹はその家の主人によって殺処分場へ連れていかれるのですが、あわやというところを逃げ出して、長い旅を始めることとなります。バラバラになった家族とその周囲の物語が幾重にも重なっていますが、個性的で魅力的な3匹の旅を中心に話は力強く展開していきます。イギリスで戦時中多くの犬や猫が安楽死させられたと、いう歴史的事実を背景に書かれた物語でした。

一年を通して新しく出版されたものに限りますが、戦争の物語を改めて読む機会をいただいて、日本と外国の作品の違いを強く感じました。当たり前のことですが、それぞれの国の歴史と戦争から受けてきた傷、それにその国の児童文学のありようが現れて一つ一つの作品となっているのだなと思いました。

■幼年童話

続いて、特におすすめの今年の幼年童話をご紹介します。

『こぶたのピクルス』は、元気なこぶたの男の子ピクルスの幼年童話です。朝、ピクルスは学校へ行く前に忘れ物がないか大きな声で点検します。「教科書、よし！ノート、よし！」「わすれ物は、ひとつもなし！」スキップしながら学校へ向かうピクルスは、道で会った牛乳屋さんやパン屋さんの忘れ物を次々に引き受け届けようとするうちに、大切なことを忘れてしまいます。「ピクルスのわすれ物」のほか、おつかいに行く話や、歯がぐらぐらになった時の話など、4編が収録されています。やわらかい印象の挿絵は、物語を引き立てています。幼年童話を読みはじめの子どもたちに安心して紹介できます。

『アレハンドロの大旅行』。イノシシのアレハンドロは、いつもにぎやかな家族の中でひとりだけしゃべらないおとなしい子どもでした。アレハンドロが少しも口をきかないので心配した両親は占い師の助言にしたがい、一人で旅をさせることにしました。アレハンドロは道中、グアナコやアルマジロ、ダチョウなどいろいろな動物に出会います。アレハンドロから言葉が聞けるのか…。続きを読んでみて下さい。お話も途中迷うことなくずんずん！進んでいきますし、全てのページに絵が付いていて、絵本から読み物へはじめて入ろうとする子どもにも安心して手渡せるお話です。

次に、『ちやいろいつつみ紙のはなし』です。

むかし、ある新聞屋に住んでいた茶色いつつみ紙がクリスマス前に売れました。子どもがいるうちに連れていかれた茶色いつつみ紙は、贈り物をくるんで、ひもをかけられふうろうを押され、郵便局から旅に出かけることとなりました。子どもたちのおばあさんの家にプレゼントを届ける旅でした。主人公が茶色い紙という、一見地味かもしれないお話ですが、些細な日常に寄り添った物語で、『チムラビットのぼうけん』（童心社ほか）のアリソン・アトリーは、目の付け所が違うな！と思います。昔のロシアの絵本を思わせるデザインの挿絵、装丁も物語の世界観をバランスよくまとめていると思います。

続いて『ウォーリーと16人のギャング』です。

小さい男の子ウォーリーが住む小さな町に、ギャングたちが16人も乗り込んできました！おまわりさんはあいにく釣りに出かけていました。大人たちは鍵をかけて家にとじこもるしかありません。しかし、頭のいいウォーリーはギャングのお頭ホグボーンにかけっこをしないかと持ち掛けます。かけっこには負けてしまうウォーリーですが、何やら考えがあるようです。「ぼくはめいたんてい」シリーズ（大日本図書）の挿絵画家マーク・シーモントの挿絵もきいています。大日本図書の新しい「こころのほんばこ」というシリーズのうちの1冊で、シリーズは5冊出版予定とのことです。（注2）小宮由さんの翻訳によるものですが、2015年大変活躍されています。

■複数の語り手を持つ物語 —主人公が一人ではない物語—

『おうだんぼどうのムッシュトマーレ』。表紙の赤い服を着た少し怪しい人が、ムッシュトマーレです。横断歩道の見張り番。本当の信号が青でも、心の信号が赤では横断歩道を渡らせてくれない人です。このムッシュトマーレが、5人の主人公（語り手）の前に現れて彼らの心に引っかかっていることを指摘して、ちゃんと向き合うように注意します。

「第一話 四月・裕太」「第二話 五月・康介」というように章立てされているので、一章ごとに語り手が変わること、時間が進んでいることが目次からもわかります。主人公同士がつながっていて、他の人の話に出てきます。中学年向けです。お話はするすると読めますし、ムッシュトマーレの印象は強烈なので子どもたちに感想を聞いてみたくくなります。

『スモーキー山脈からの手紙』は、アメリカのスモーキー山脈にあるホテル「スリーピータイム・モーテル」が舞台。このホテルのオーナーのアギーと、ホテルに泊まっている子どもたちウィロウ、ロレッタ、カービー4人が物語を紡いでいきます。それぞれの目線からそれぞれが抱えている問題にどう向き合うか、4人がお互いにどう関わっていくかが描かれます。章が変わるときに、その章の語り手が必ず絵と一緒に示されているので、誰が話しているのかはつきり意識させられます。大人っぽい感じがして高学年以上という印象です。

物語の語り手が複数いることで、読み解く視点や角度が増えて深みが増すように思います。私は最初、物語を読みなれない子どもには不向きな手法ではないかと思いました。しかし、周りに聞いてみると朝読のように短い時間を繋げた読書をする子どもがいること、短編が読みやすいこと、YA作品、ライトノベルなどに影響を受けているのかも…と、色々な意見がききました。これからも、小学生向けにこういうお話が出るかもしれないと思い、ちょっと注目をしてみました。このテーマ

は、特徴を追ってリストを作ってみましたので、YA向けのものも入っています。

■学校・家庭—日常の物語—

『**金色のキャベツ**』。5年生の風香は、夏休み中の予定がぎっしり。塾の夏期講習に英語の検定試験とピアノの発表会。パパもママも忙しく、家族の旅行の予定も立たない。心がささくれ立つ風香にパパの弟、仁ちゃんから大きなキャベツと「遊びに来い！いつでも待っている」という手紙が届きます。

パパとママには黙って、風香は一人で仁ちゃんが住んでいる「かろう村」に行くことにしました。突然の訪問にもかかわらず、みな歓迎してくれるかろう村で、風香は農家の生活、キャベツ畑で働くことを、実感を持って知ることになります。風香の心の変化が目覚ましく感じられました。中学年から読めるような文字数と厚さですが、高学年の子まで広くお勧めできる作品です。

2冊目は、『**ニレの木広場のモモモ館**』です。

転校してきたばかりの5年生のモモとモカ。それに、4年生のカンタの3人はニレの木の下で偶然出会い意気投合。児童館の安田さん（良い大人）に背中を押されて掲示板に貼る壁新聞を作ってみようということになります。3人の名前から「モモモカン」という新聞の名前が決まり、3人は新聞づくり、記事集めに夢中になります。6年生の絵の上手な男の子、りっくんも加わってモモモ館新聞はどんどんにぎやかになっていきますが、りっくんの「替え玉作戦」だの、泥棒の一味の秘密だの、ハラハラする展開もあります。子どもたちが主体で物語がどんどん進むところが良いです。「モモモ館の仲間たち」のタイトルで2014年に朝日小学生新聞に掲載したものに加筆訂正が入ったそうです。（『ニレの木広場のモモモ館』奥付より）新聞連載やWEB連載からの書籍化も増えました。

『**茶畑のジャヤ**』の主人公は、成績は優秀、でもクラスで孤立しいじめられた周です。

学校に行くのが辛くなった周のことを、パワフルなおじいちゃんが仕事で行くスリランカに誘ってくれます。スリランカでは文化の違いなど驚くことがいっぱい。仲良くなった女の子ジャヤが、タミル人の子どもの、シンハラ人からあからさまに差別されるのを目の当たりにし、周は強い民族間の対立に驚き考えさせられることになります。スリランカの歴史的背景やいじめをテーマにした物語ですが、中川なをみさんの作品の中でも軽めに読める分量、描かれ方でした。周の視野が、日本でいじめられ狭くなっているところから、スリランカに行って広がる感覚が良かったです。茶畑を見下ろす場面があるのですが、そのシーンが視界を広げるイメージにつながっているように思いました。

■冒険・ファンタジー —違う世界へ—

『**さかさ町**』は、リッキーとアンの兄妹が全てのことがさかさまの「さかさ町」で一日を過ごすことになったお話です。「さかさ町」では看板も家も車も働く人もさかさま。子どもが楽しそうに働き、お年寄りも遊んでもいいことになっています！野球場、学校、ショッピングセンターをめぐる2人と共に驚き、楽しめるかるめのファンタジーです。ルイス・スロボドキンの挿絵からも「さかさ町」のたのしい空気が感じられます。（野球場の場面の「としよリーグ」(p.50)が私のツボです。）

今年、児童文学好きの大人をわざわざとさせたであろう一冊を紹介します。読んだ人も多いのではないのでしょうか？『[岸辺のヤービ](#)』です。

フリースクールの教師であるウタドリ先生が、マッドガイド・ウォーターという湖の岸辺でボートを浮かべている時に会ったヤービの話です。ハリネズミみたいですが、白い毛でふわふわしていて二足歩行で、お話ができます。このクイー族のヤービにウタドリ先生がミルクキャンディーをあげたことをきっかけにヤービたちの暮らしを知ることになったのです。個人の感想としては、きれいな語り口で、ヤービの生活の一部分を見たと思ったらあつという間に読み終わってしまい、もつとヤービの世界に入っていきたくかったです。マッドガイド・ウォーターシリーズとして、次は学校の話になるようですが、続巻が出るようです。大人っぽい印象もあり、もう少し見守っていききたいと思う物語です。

『[踊る光](#)』は、6つのお話からなる短編集です。

表題作の「踊る光」は、灯台守の練習するダンスの音楽に呼応して発光のリズムを変える魔法の灯台の話。ダンスの音楽を奏でるのは年を取らないウミアシと呼ばれる不思議な若者でした。どのお話も、一話一話が力強く、物語の世界がしっかりと形作られています。恥ずかしながらトンケ・ドラフトという作家の作品を私は今まで読んだことがありませんでしたが、この本をきっかけに、『[王への手紙](#)』（上・下、岩波書店、2005年刊）を読みました。ぜひ子どもたちに読んでもらいたい作家です。私にとっては、やはり古典作品や蔵書の核になる部分の作品を読み勉強して、新刊の選書に照らしていかなければならない！と、学び続ける必要を感じさせられた作品となりました。

ラドヤード・キプリングの『[ジャングル・ブック](#)』は、『[続ジャングル・ブック](#)』と併せて15編の短編がありますが、その中からオオカミに育てられた人間の男の子モウグリが登場する8編が選ばれ、三辺律子（さんべりつこ）さんの新訳『[ジャングル・ブック](#)』となりました。時系列順が前後するところもありますが、語りのお話を聞いているように読みました。登場する動物たちも魅力的です。灰色のひとりオオカミのアケイラや、モウグリと因縁の対決をすることになるトラのシア・カーン…など。ジャングルの森のにおいが沸き立つような感覚を覚えながら読みました。キプリングという作家の力強さを感じられます。表紙画、挿絵はマンガ家の五十嵐大介さん。作品の尊厳を保ちつつ、ずいぶん読みやすい形で出版されましたが、それでも、読み手を選ぶ物語かも…。それでも私はその魅力を十分に感じられたので、怖がらずに高学年の子に紹介し続けたい本です。

■その他

ここでは、話題となった本や気になった本を紹介していきたいと思います。

まず、最初に2015年は犬の本が多く出ました。リスト上から4冊、犬が出てくる物語です！その中から私のおすすめを紹介します。

『[トルネード!](#)』では、劇中劇のように物語の中で物語が語られています。

アメリカの広いトウモロコシ畑を持つ農家の家族とその農場を手伝うピートは、ある日、竜巻から逃れるため避難用の地下室に逃げ込みます。竜巻が過ぎ去るのを待つ間、ピートは子どもの頃に自分が飼っていた犬の話をしてくれます。犬の名前はトルネード。まさにこんな竜巻の日、トルネードは、犬小屋ごとピートの家にやってきた。地下室でピートの話を聞いている場面と、ピートが語

るお話とが交互に描かれていて臨場感があります。中学年におすすめです。

『[ぼくたちの相棒](#)』は、2人の男の子と2匹の犬のお話です。デンバーからの転校生のレスターはゴールデンレトリバーの雑種犬「ビルゲイツ」を四歳の時から飼っています。新しいクラスメイトのジョージもボーダーコリーの雑種犬「バート」を飼っていて、ふたりは理科の課題で同じ実験に取り組むことになりました。ルパート・シェルドレイク博士の、「飼い主がいつ帰るか、犬がわかっているか確かめる実験」です。実験を通して2人が打ち解けていく様子や相棒である犬たちへの愛情が丁寧に描かれています。挿絵も物語の世界に寄り添っていて、要所でお話を盛り上げています。シェルドレイク博士は、実在の人物、実験も本物なのです。物語の中でジョージとやり取りするメールは博士が実際に書いている点もこの物語の面白いところです。

次に、イルカやクジラが出てくる本も3冊リストにあります、その中から1冊紹介します。

『[クジラに救われた村](#)』の主人公、スキは現代のイヌイットの女の子。ある日、スキはお母さんから突然、ひいばあちゃんの家に預けられます。18歳のお兄ちゃんのレヴィが自殺未遂で意識不明となり、病院に搬送されたのです。スキは、伝統的なイヌイットの暮らしを続けるひいばあちゃんの家から、集中治療室にいる意識不明のお兄ちゃんへ、自分の声とクジラの音を吹き込んだカセットテープを送ります。現代社会と伝統の狭間に生きるイヌイットたちの物語です。スキは自分たちイヌイットの若者の歩む道を模索します。切実なテーマを扱っていますが、スキの心がストレートに伝わってきますし、分量も多くなく中学年から高学年の子が読める物語だと思います。先に紹介しました『[金色のキャベツ](#)』や『[茶畑のジャヤ](#)』などと同じように、子どもっぽくなく、内容やテーマに重さがあるにも関わらず分量が少なめなので、高学年で本の厚さで拒否反応がある子などにすすめられるかも…と、思います。

次は『[百まいのドレス](#)』(岩波書店ほか)のエレナー・エステイス作で、『[チムとゆうかんなせんちょうさん](#)』(福音館書店ほか)のエドワード・アーディゾーニの挿絵の『[ゆうかんな猫ミランダ](#)』をご紹介します。舞台は古代ローマ。ミランダは二歳半の立派な母ねこで、コロッセオのほど近く、クラウドディアという女の子の一家が暮らす大理石の家に、ブンカという娘のネコ、それに犬のザクと暮らしていました。しかし、ある日ローマは蛮族に攻められ、火を放たれます。ミランダやブンカたちは、炎に追われ、コロッセオへと逃れます。しかし、安全かと思われたコロッセオにも戦いのため連れてこられたライオンが閉じ込められていたのです。猫のミランダが大きなライオンに対峙する場面は、緊張する物語の見せ場です。古代ローマという、なかなか馴染みのない時代が舞台ですが、無駄のない物語の運びが、ゆうかんなミランダの冒険へと迷いなく引き込んでくれます。中学年から…特に猫好きの子どもと大人におすすめです。

5年を迎えようとしている東日本大震災と正面から向き合った作品は、『[岬のマヨイガ](#)』だったと思います。岩手日報の子供向けのページの連載小説に加筆修正したものです。(同書奥付より)夫の暴力から逃げてきたゆりえさんという女性。両親を事故で亡くした萌花ちゃんという小学生。引き取り手がいないというおばあちゃんキワさん。3人は狐崎という町に来たその日に大震災に遭いました。津波被害にあった町の避難所で出会った帰る家のない3人。キワさんの気転(?)で、岬に立つ古民家で一緒に暮らすことになります。遠野から来たというキワさんは異世界のものを感じた

り、不思議なものと友達だったりします。キワさんは地震の後の狐崎にうごめく異変に気が付きしずめようとします。岩手県出身の柏葉幸子さんのデビュー40周年記念作品となりました。設定や話の運びで「こんな風になるかな？」と、思うところはありますが、トントンとすすむお話は読ませられてしまいます。「私が書かなければいけない！」という柏葉さんの思いを感じました。挿絵も岩手在住のさいとうゆきこさんという方です。

『**ぼくたちに翼があったころ**』。コルチャック先生というと、孤児たちとユダヤ人強制収容所で命を落としたという最後が印象的だと思います。この物語は、今まで広く知られてはいなかった、コルチャック先生(ドクトルと呼ばれていた)が運営していたユダヤ人の「孤児たちの家」での日々を光を当てています。主人公は、新しく「孤児たちの家」に入った男の子ヤネク。彼は貧困、盗み、暴力の中にあつた日々から一転、ドクトルの《家》で新しい生活をはじめます。自分が必要とされていないと思ひ込み、誰も信じられなかったヤネクはしだいに心を開き、ドクトルと友達に支えられ自分の生き方を立て直していきます。ヤネクの目と心を通して「孤児たちの家」での子どもたちの生活や、運営方法を知ることができます。「孤児たちの家」では、子どもの法廷、新聞の発行などがあつたそうです。この物語は、ヤネクの心の回復と史実の再現とが二本の柱となっていますが、作者によって行われた綿密な取材が全体の基盤をゆるぎないものにしてています。作者と訳者によるあとがきまで、読みごたえがあります。この1年で、私が読んだ中で最も揺さぶられた物語の中の一つです。

■詩

『**おどる詩あそぶ詩聞こえる詩**』は、『しゃべる詩あそぶ詩聞こえる詩』(富山房, 1995年刊)『みえる詩あそぶ詩聞こえる詩』(同上, 1997年刊)に続く3弾です。すごく良い詩おかしい詩がいっぱい! 本当に笑って踊れると思います。谷川俊太郎、まど・みちお、阪田寛夫、川崎洋ほか…そうそうたるメンバーの61編が収録されています。子どもたちによる詩も収録されていますが、よく収集されたなあ! と思います。すごく面白いのです。「おとうちゃん大好き」「入江君へ」が一押しです。お話し会やブックトークで紹介したくなりませんか?

編集を務めたはせみつこさんは、2012年に逝去されました。その、はせさんの集大成です。谷川さんのあとがきに、はせさんの言葉として「<ことばをおいしく食べて>あなたの好きにあそんでください<ときにはだまって耳をすまし、心をすましてみてください>」とあります。

■シリーズ

新シリーズはテーマ別にも紹介されています。ここでは、旧シリーズと、2015年に完結したものをリストに入れていきます。

■復刊・再刊・改題・改訂版

復刊の形も様々で、復刊される内容も、古典や読み継がれるものからやさしいものまで、色々なものが刊行されました。復刊、再刊、改題、改訂版、新イラスト、文庫化など…形態も様々です。

まず、『**わすれものの森**』。

音楽会で使うたてぶえをなくしてしまったツトムは、笛を探しに向かった放課後の教室で変な二人組と出会います。魔法使いのような格好のその2人は、子どもの忘れ物を集めて、わすれものの森

に持って行ってしまおうといひます。そしてツトムは、二人にその森へ連れて行ってもらひ、笛を探すことになりまひます。昭和の感じはするのですが、日本のファンタジーで身近な学校から、さつと他の世界へ行く感じが良いと思ひます。岡田淳さんが小学校の図工教師だったと知り、絵が上手かったわけが分かったー！と思ひました。『忘れものの森』文研出版1975年刊の加筆で復刊です。（「わすれものの森」奥付より）

『大きなたまご』の主人公ネイトくんは、ニューハンプシャー州フリーダムという町に住む男の子。

ある時、家で飼っているニワトリがとてつもなく大きなたまごを産みます。ネイトは何とかしてこのたまごがかえるようにと世話をするのですが、孵してみるとそれはなんとトリケラトプスの卵だったのです！（いくらフィクションだからってそんなのあり！と叫びたくなる）ネイトは赤ちゃんのトリケラトプスにアンクル・ビーズレーという名前をつけて自分の家で育てはじめます。12歳のネイトから読者に語られるアメリカの田舎町での恐竜大騒動は、奇想天外でありながらリアルに感じられ、「もしかしたら本当にあるかもしれない…」という気持ちにさせられます。1968年に学習研究社より出版されていたものの改訳再刊。（『大きなたまご』p.294より）底抜けに明るいこの物語は、中学年以上の特に恐竜好きに紹介したいです。

■児童図書館員・学校司書・子どもの本に関わる大人の人へ

最後に、子どもの本に関わる全ての大人へ向けた2冊を紹介したいと思います。

『石井桃子コレクション 3 新編子どもの図書館』。私たちの先輩たちは読まれている本ですが、私と同年代か、もしくはそれより若くして児童図書館員として働いている人にぜひ読んでほしい本です。石井桃子さんが自宅で試みた子どもの図書室「かつら文庫」の経過と記録がまとめられたこの「子どもの図書館」が、手に取りやすい形で刊行されました。家庭文庫の存在を意識して知っていてほしいですし、子どもたちの読書記録は図書館では正直なかなか追えないもので、勉強になります。また子どもの本についての章では、「ながぐつをはいたねこ」の翻訳や「ちびくろさんぼ」について触れられていますが、これはずっと私の選書の軸にあります。

そして、『学校図書館はじめの一步』は、初めて学校図書館勤務をした人、新しい学校図書館に勤務し始めた人におすすめです。その学校図書館をまず知り、より良くしていくには…というように内容が進んでいきます。チェック欄もあり、仕事に使いやすく、手に取りやすい資料です。何から始めたらよいか、と悩んでいる人や、引き継ぎのない現場を受け持つ人の「まずは…」という手引きをしてくれる本だと思います。そして、同時に『司書と先生がつくる学校図書館』も励みにもなりますし、実務に役立つのでお勧めです。学校図書館は児童サービスの第一線だと思います。公共図書館に來ない子も目の前にいるのです。すごい職場だと思います。

子どもと本の橋渡しをすることを続けていくということは、大変なこともあると思ひます。こういう本に励まされることが私自身にはありますので、このテーマは、会場の皆さんを応援する気持ちで組みました。最後まで聞いてくださって、ありがとうございました。

（於：株式会社図書館流通センター 2016年3月7日・8日）

注

1) NHK「真田丸」

<http://www.nhk.or.jp/sanadamaru/>

最終確認日：平成28年5月1日

2) 大日本図書「こころのほんばこ」

http://www.dainippon-tosho.co.jp/shop/default.php/cPath/12_109?

最終確認日：平成28年5月1日